

小腸の機能障害の状況及び所見

身長	cm	体重	kg	体重減少率 (観察期間)	%
----	----	----	----	-----------------	---

1 小腸切除の場合

(1) 手術所見：・切除小腸の部位、長さ cm
 ・残存小腸の部位、長さ cm

(手術施行医療機関名)

(できれば手術記録の写しを添付すること。)

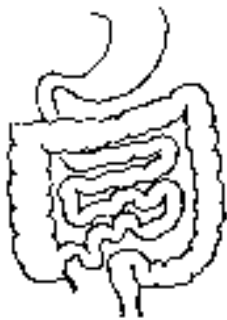
(2) 小腸造影所見((1)が不明のとき)－(小腸造影の写しを添付すること。)
 推定残存小腸の長さ、その他の所見

2 小腸疾患の場合

病変部位、範囲、その他の参考となる所見

(注) 1 及び 2 が併存する場合は、その旨を併記すること。

[参考図示]



切除部位
 病変部位

3 栄養維持の方法 (該当項目に○をすること。)

① 中心静脈栄養法：

・開始日 年 月 日

・カテーテル留置部位 _____

・装具の種類 _____

・最近6箇月間の実施状況 (最近6箇月間に 日間)

・療法の連続性 (持 続 的 ・ 間 欠 的)

・熱 量 (1日当たり kcal)

② 経腸栄養法：

- ・開始日 年 月 日
- ・カテーテル留置部位 _____
- ・最近6箇月の実施状況 (最近6箇月間に 日間)
- ・療法の連続性 (持 続 的 ・ 間 欠 的)
- ・熱 量 (1日当たり kcal)

③ 経口摂取：

- ・摂取の状態 (普通食・軟食・流動食・低残渣^さ食)
- ・摂取量 (普通食・中等量・少量)

4 便の性状： (下痢・軟便・正常)、排便回数 (1日 回)

5 検査所見 (測定日 年 月 日)

赤血球数 /mm、血色素量 g/dl

血清総^{たん}蛋白濃度 g/dl、血清アルブミン濃度 g/dl

血清総コレステロール、中性脂肪 mg/dl

濃 度 mg/dl、血清カリウム濃度 mEq/l

血清ナトリウム濃度 mEq/l、血清マグネシウム濃度 mEq/l

血清クロール濃度 mEq/l

血清カルシウム濃度 mEq/l

注1 手術時の残存腸管の長さは、腸間膜付着部の距離をいう。

2 中心静脈栄養法及び経腸栄養法による1日当たり熱量は、1週間の平均値によるものとする。

3 「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。

4 小腸切除 (身体障害者福祉法施行規則 (昭和25年厚生省令第15号) 別表第5号に規定する身体障害者障害程度等級表1級又は3級に該当する大量切除の場合を除く。) 又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については、再認定を要する。

5 障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもつて行うものとし、それ以外の小腸機能障害の場合は6月の観察期間を経て行うものとする。